

読み聞かせボランティアおすすめ本の紹介

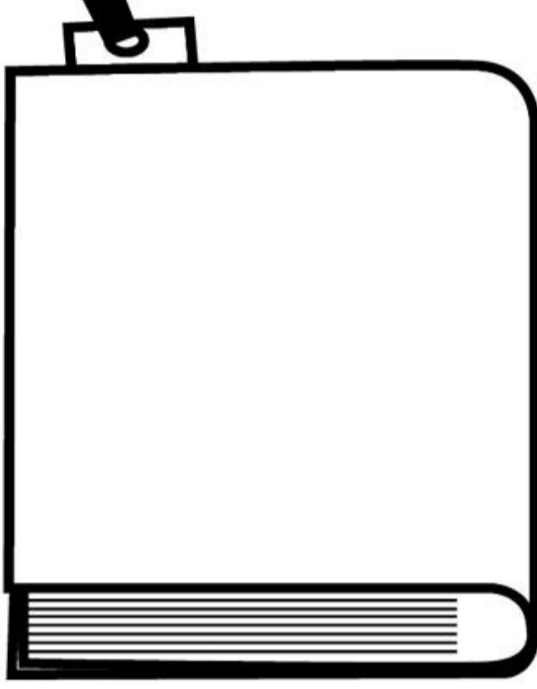
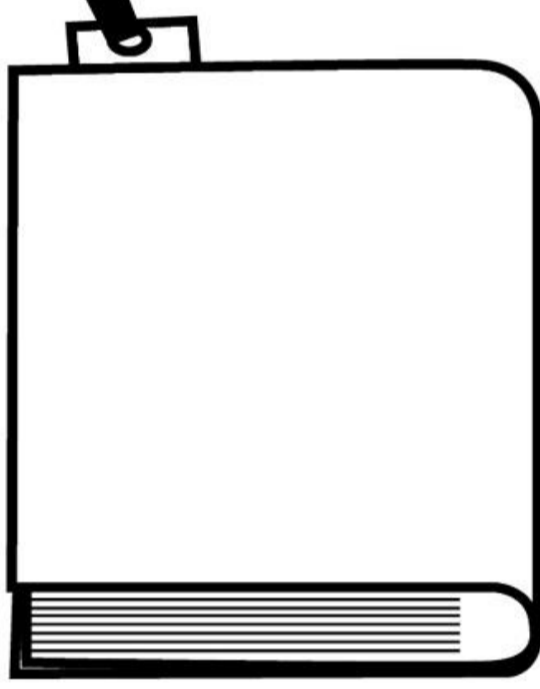
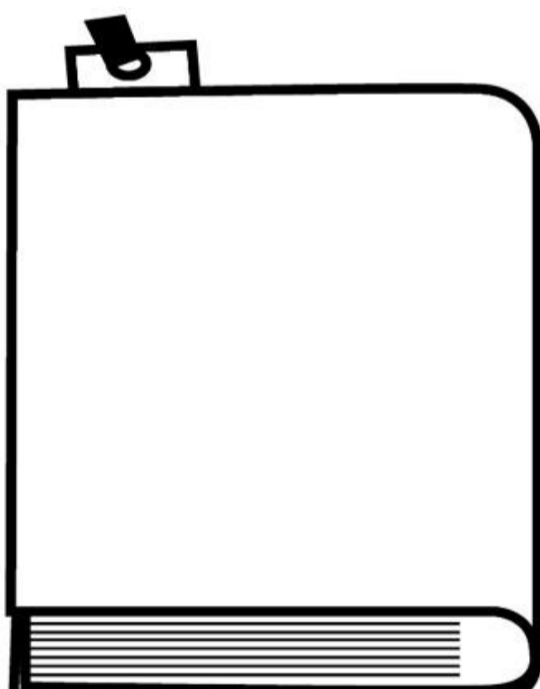
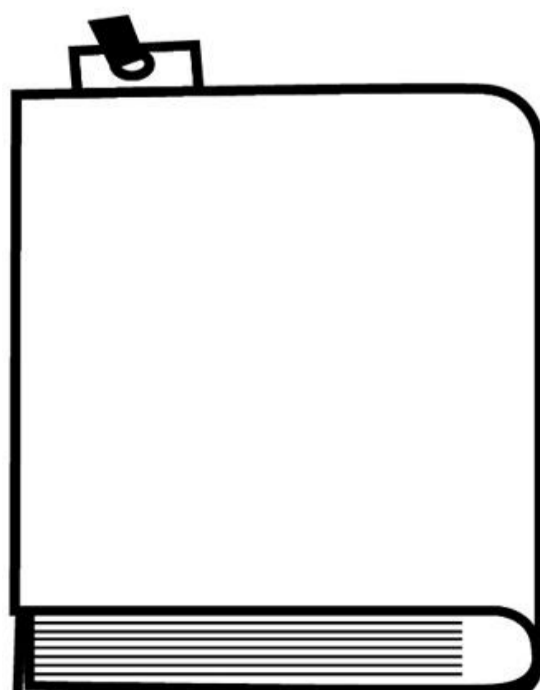
保護者の皆さん、児童のみなさんお元気ですか？

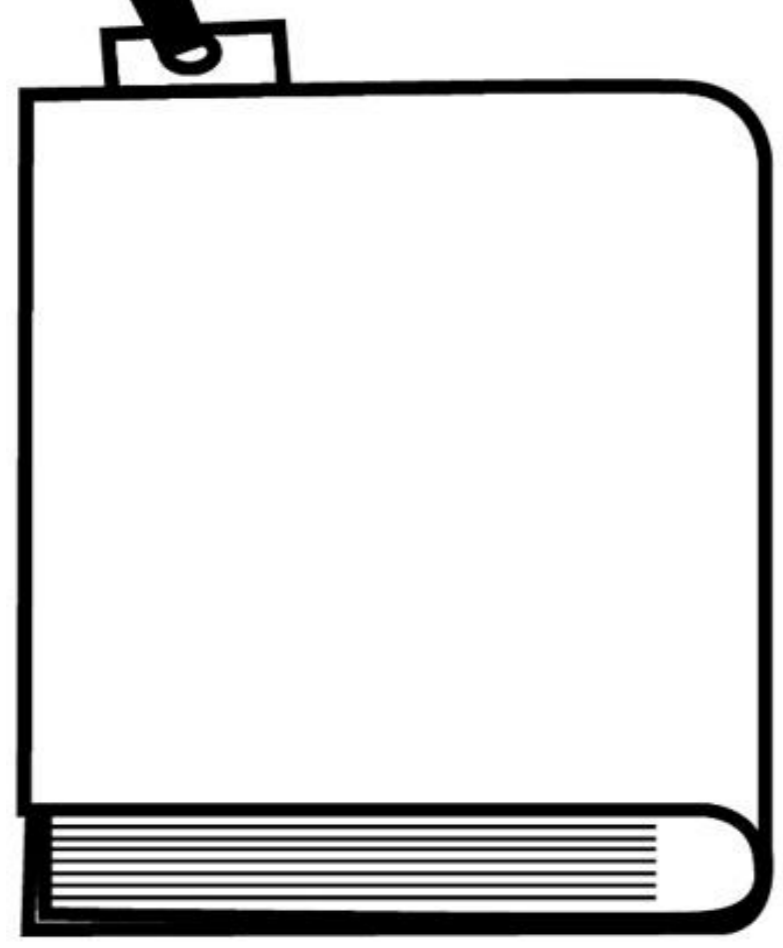
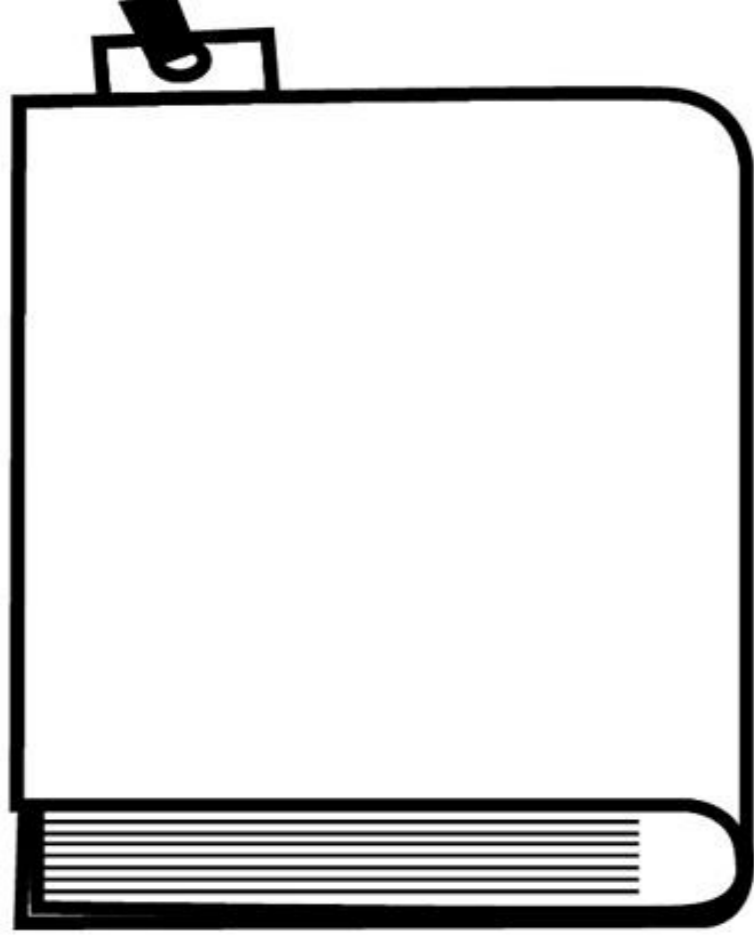
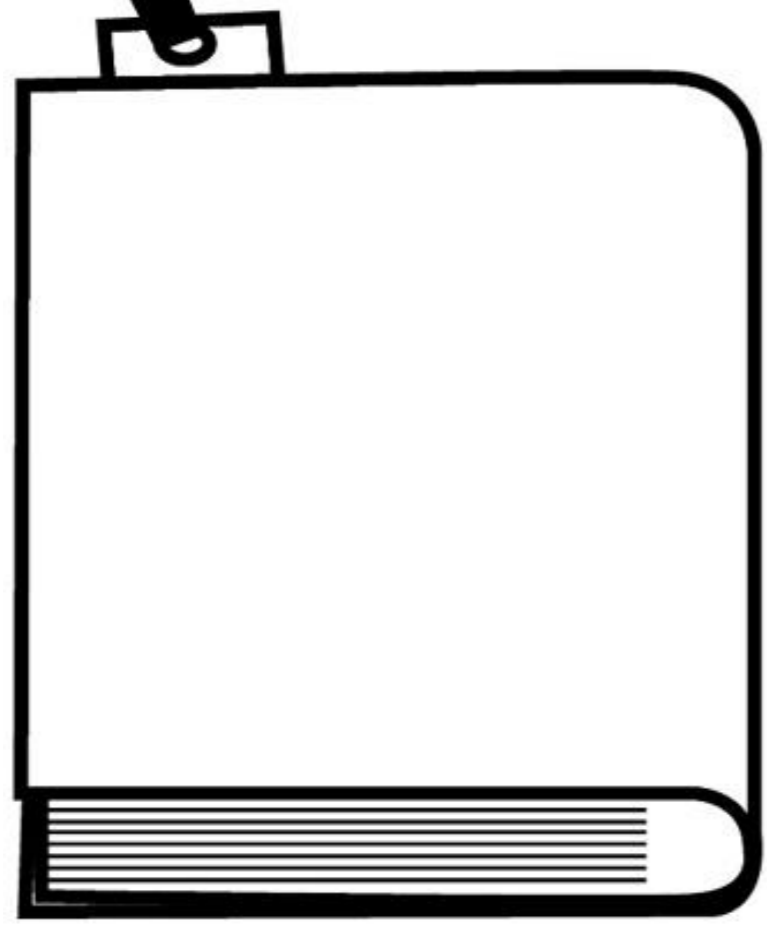
自由登校ができる期間ではありますが、子ども達が家にいることが多く、親子で本を読む時間も多少は増えているのではないかと感じています。

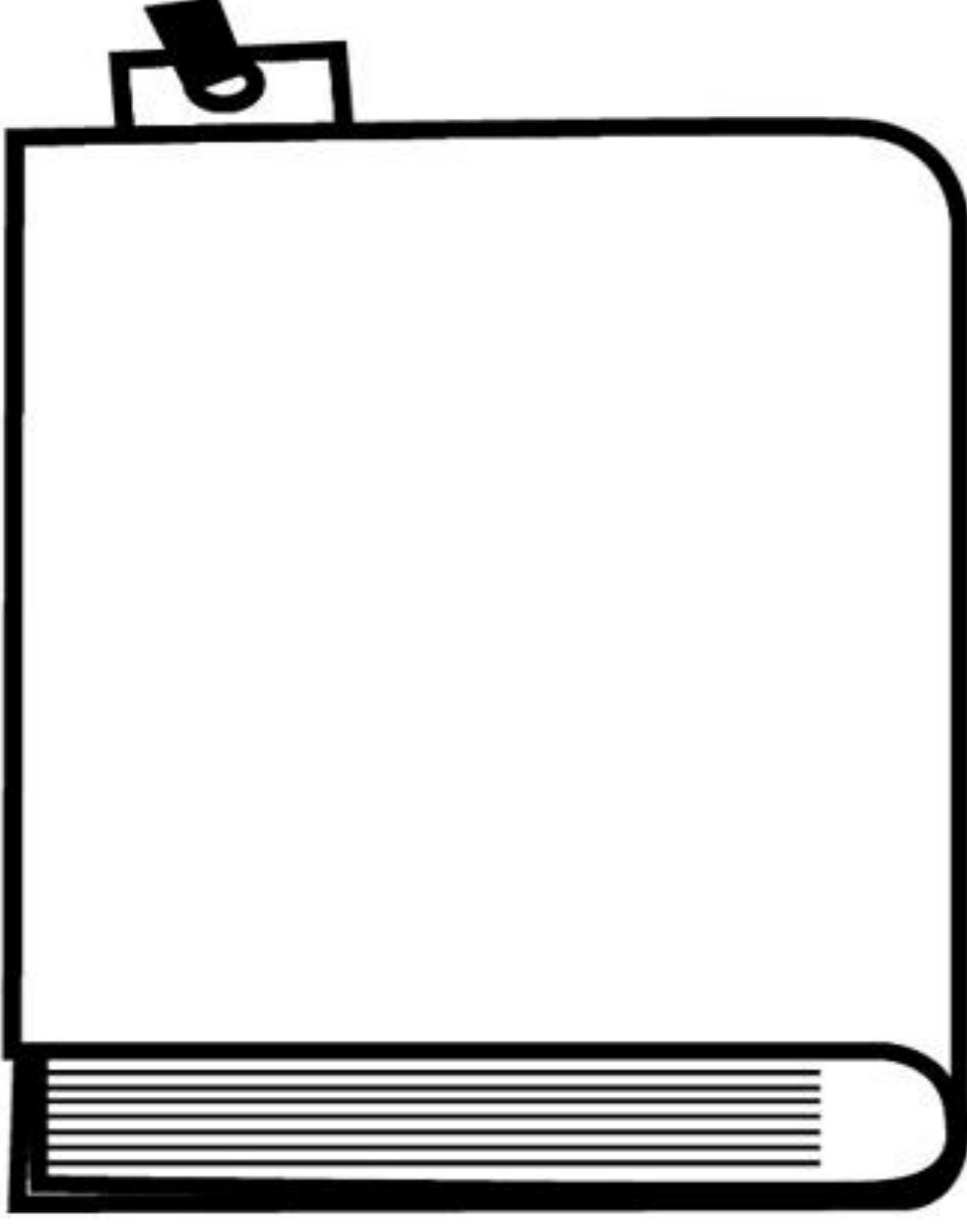
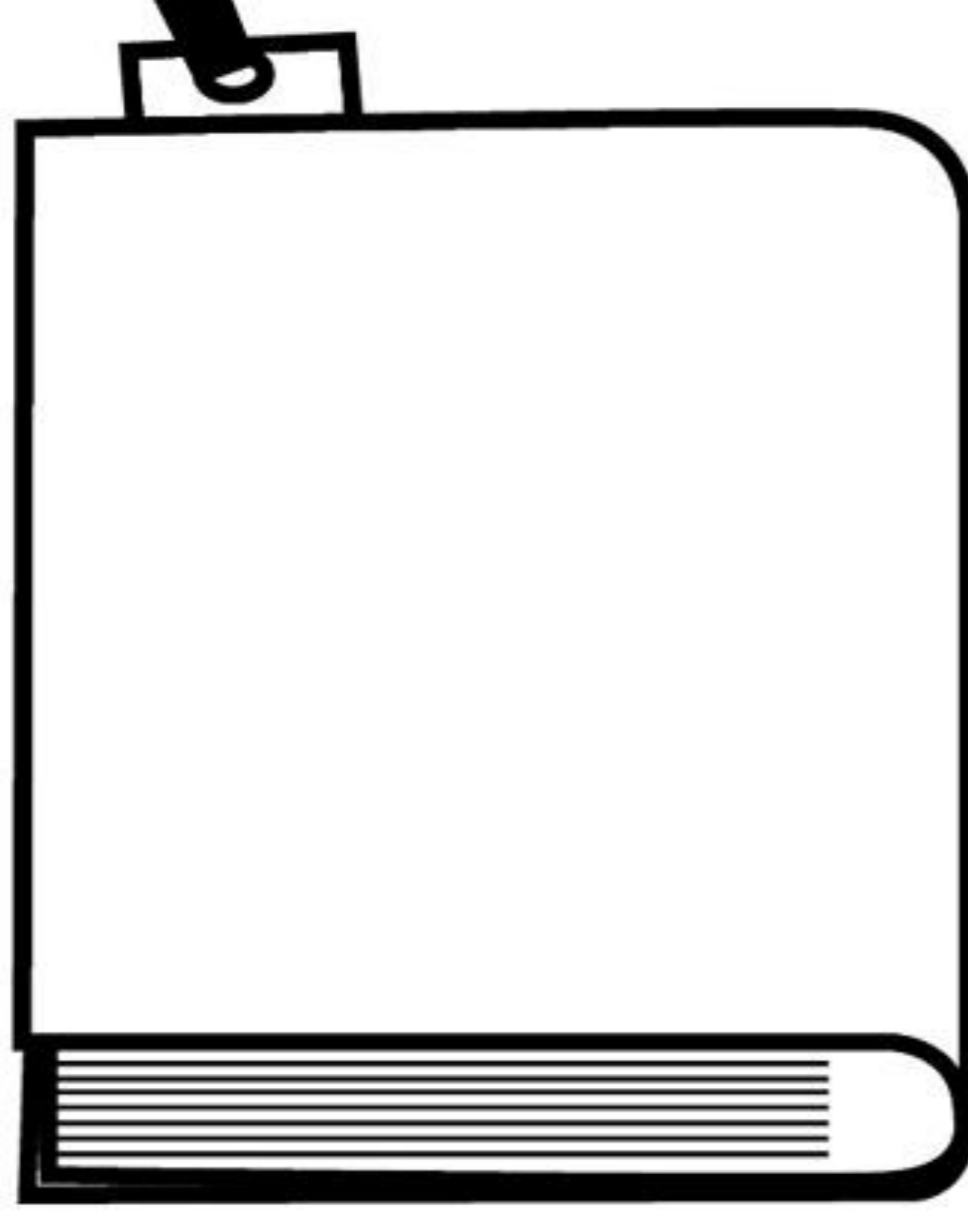
そこで、各学年代表、読み聞かせボランティアのみなさんのおすすめの本を紹介します。

子どもも大人も楽しめる本です。

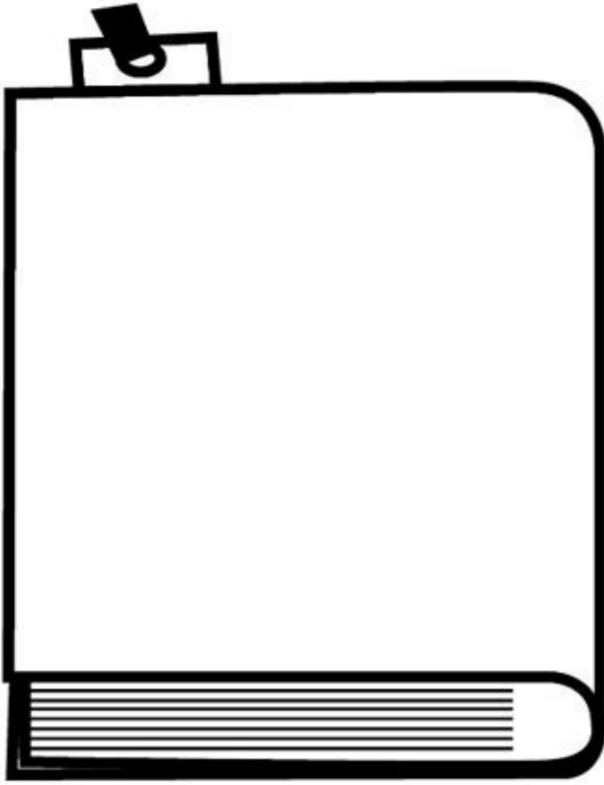
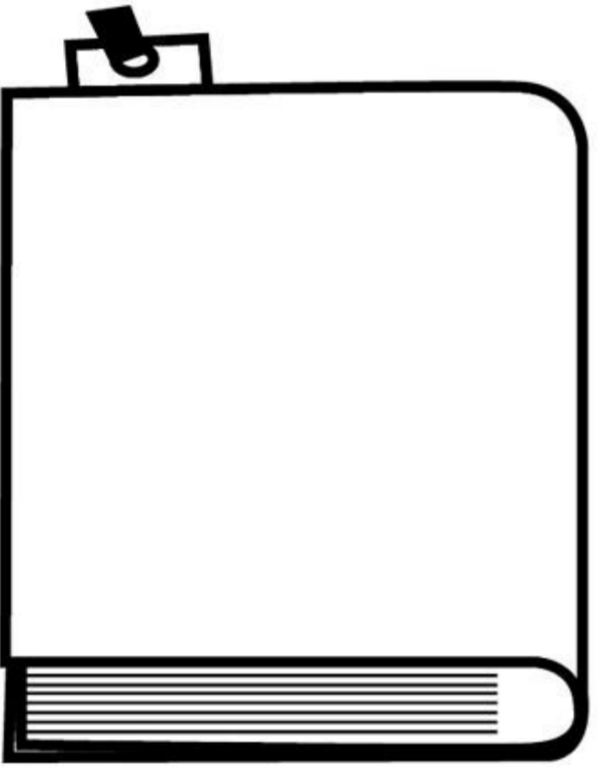
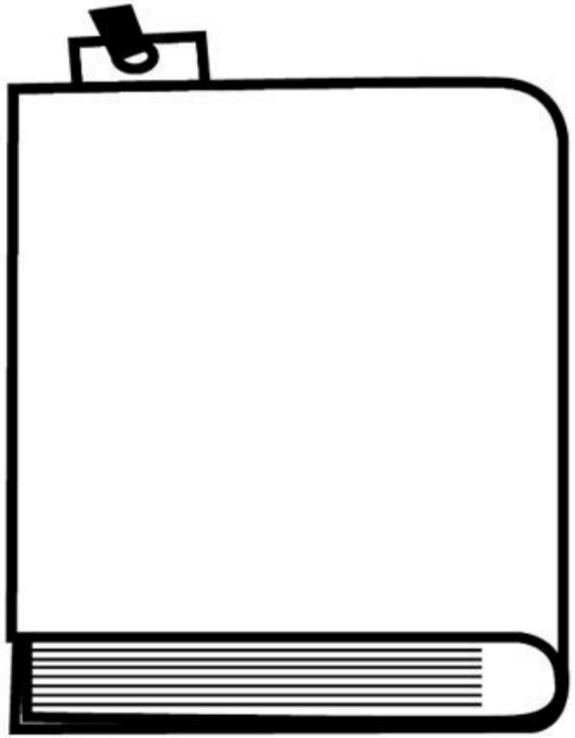
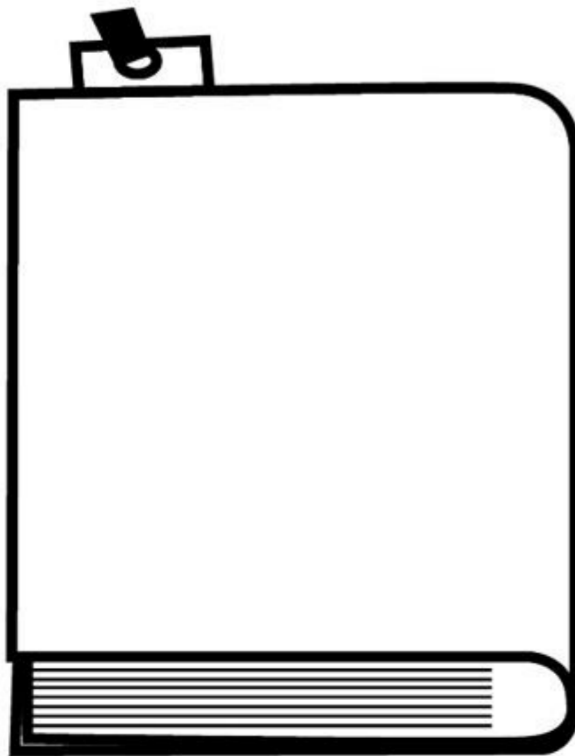
子ども向けの絵本

本のタイトル 作者	こんな本ですよ～
<p>『走れみかんの皮』 吉田戦車</p> 	<p>ある日、みかんの皮が目覚ますと 実が消えていた！みかんの皮が実を探す中、果物、動物など遭遇し、最後に出会ったのは？ 心温まる、冒険ストーリー、思わず吹き出してしまう物語です。</p>
<p>『からすのパン屋さん』 かこさとし</p> 	<p>パン屋の仕事と子育ての両立はとっても大変！ カラス家族が作る、変わった形の美味しそうなパンが魅力的な絵本です。</p>
<p>『ねえ、どれがいい？』 ジョン・バーニンガム作 まつかわ まゆみ訳</p> 	<p>この絵本は、たくさんある質問の中から自分自身の答えを選ぶ絵本。 住むところから、食べるもの、バケーションの過ごし方から、 お金のもらい方まで、それはそれは様々な質問が登場し、 読者はいつの間にかどれにしようかと選択作業に夢中。 この迷う間に、読者の頭の中にもイメージーションが広がります。</p>
<p>『ウォーリーを探せ』 マーティン・ハンフォード作絵 唐澤則幸 訳</p> 	<p>絵の中から、ウォーリー、仲間たち、巻物などを探していく、 親子で楽しめる絵本です。 誰もが一度は見たことがあるのでは？</p>

本のタイトル 作者	こんな本ですよ～
<p>『ウエズレーの国』 ポール・フライシュマン作 ケビン・ホークス絵 千葉茂樹 訳</p> 	<p>いつも一人だけはみ出して浮いているというウエズレー少年。 夏休み、庭で自分だけの作物を育て、自分だけの文明をつくり、独自の言語まで作っていった。 すると、友達が集まってきて・・・ 何もないところから生み出していくことはワクワクする、爽快ストーリー。</p>
<p>『庭をつくろう！』 ゲルダ・ミュラー作 ふしみ みさを訳</p> 	<p>春、バンジャマンの引っ越してきた家には、広い庭がありました。 でも、ながいこと空き家だったので、庭はあれほうだい。 まるでジャングルみたい！ すてきな庭をつくるには、どうしたらいいのかな・・・？</p>
<p>『アンドルーのひみつきち』 ドリス・バーン文、絵 千葉茂樹 訳</p> 	<p>アンドルー・ヘンリー・サッチャーは、5人姉弟のまんなかでいつもひとりぼっち。 そんなアンドルーはものづくりが大好き。でもやりすぎて家族にはいつも文句をいわれる。 とうとう道具一式もって、家出をすることに。 原っぱに自分だけのひみつきちを作ったら、すぐに仲間が集まってきて・・・</p>

本のタイトル	作者	こんな本ですよ～
<p data-bbox="226 323 667 362">『クリスティーナのおおきなはこ』</p> <p data-bbox="268 371 634 439">パトリシア・リー・ゴーチ作 ドリス・バーン絵 おびかゆうこ訳</p> 		<p data-bbox="730 442 1134 480">おおきなはこでなにをつくる？</p> <p data-bbox="730 489 1528 807">クリスティーナは、いろいろなものを集めています。 空きかんや、動かなくなった時計、よれよれのネクイ……。 でも、何より好きなのは、箱でした。 箱が大きければ大きいほどクリスティーナはワクワクします。 ある日クリスティーナの家新しい冷蔵庫が届きました。 空になった箱をもらったクリスティーナは大喜び。 さてクリスティーナは何を作るのでしょうか？</p>
<p data-bbox="289 1003 613 1041">『かわべのトンイとスイ』</p> <p data-bbox="319 1050 583 1118">キム・ジェホン作 星あキラ、キムスヨン訳</p> 		<p data-bbox="730 1056 1873 1466">物語は町へ豆を売りに出かけたお母さんの帰りを待ちきれなくなったお兄ちゃんのトンイと妹のスニが、お母さんを迎えに行くことにするシーンから始まります。 川辺にある岩が、色々な物に見えてくるのですが、幼い二人の心情を上手く表現しています。 隠し絵があるのですが物語に登場するものもあれば、単に潜んでいるものもあり、風景に溶け込んでいる、素晴らしいもの。 兄妹愛、自然との触れ合い、人と自然の共存など、今の日本で忘れかけられそうなことを、充分に感じることができます。 ラストシーンも微笑ましく、心の琴線に触れる作品としておすすめです。</p>

大人向けの本

本のタイトル	作者	内 容
<p>『できないもん勝ちの法則』 ひすいこたろう作</p> 		<p>本書は、作家ひすいこたろうの息子、ユータロー君が幼稚園の頃から高校2年生になるまでに、実際あったやり取りをまとめたものです。</p> <p>ユータロー君は、成績的にはできの悪い息子だけど、学校からは毎日のように、「今日が一番楽しかった」と言って、過去最高を更新して帰ってきます。</p> <p>この本は、あなたの心をゆるゆるに再びやわらかくしてくれる本です。</p> <p>笑いながらあつという間に読めて、でも大切なことを思い出させてくれるような本です。</p>
<p>『ママはテンパリスト』 東村アキコ</p> 		<p>すいません 育児ナメてました。</p> <p>革命的面白さの、新世代育児エッセイ!</p> <p>漫画連載を多数かかえる作者は、初育児に毎日テンパりまり!!</p> <p>息子ごっちゃんの、予想を裏切る驚愕リアクションの数々…。</p> <p>その危険な魅力に、やみつきになります。</p> <p>全4巻</p>
<p>『ミライの授業』 瀧本哲史</p> 		<p>どうして勉強するの?の質問に答えてくれてくれている本です。</p> <p>当代の戦略家が21世紀に生まれた子供たち向けに語っている形式。生きていくことは妥協を重ね、不条理に慣れていくことでもあると思うが「日常で感じる違和感を大切にす」というのは実は子供達だけでなく我々大人にもとても大切なことだと思う。</p> <p>ベストセラー「僕は君たちに武器を配りたい」の著者・瀧本哲史さんが全国の中学校を訪れて開講した特別講義「未来をつくる5つの法則」のエッセンスが本になりました。</p>
<p>『青くて痛くて脆い』 住野よる</p> 		<p>人に不用意に近づきすぎないことを信条にしていた大学1年の春、僕は秋好寿乃に出会った。空気の読めない発言を連発し、周囲から浮いていて、けれど誰よりもまっすぐだった彼女。</p> <p>秋好の理想と情熱に感化され、僕たちは二人で「モアイ」という秘密結社を結成した。</p> <p>過去と現実が交差しながら物語は進んでいきます。</p> <p>散りばめられていた点が、線になっていき主人公が後に引けない状況を作り出していきます。</p> <p>若かりし頃の苦い思い出はありませんか?</p> <p>君の隣をたべたいの作者が送る青春ミステリー。</p>